

診断力が高まる

解剖×画像所見×身体診察 マスターブック

Sagar Dugani, Jeffrey E. Alfonsi, Anne M.R. Agur, Arthur F. Dalley【編】,
前田恵理子【監訳】

評者

大友 邦

国際医療福祉大学／学長

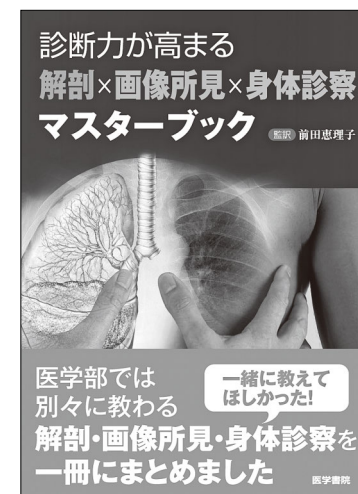
基礎医学そして臨床医学の急速な進歩にお尻を叩かれる形で、医学教育も進化しつつある。いわゆる領域別・臓器別統合講義と参加型臨床実習の導入がその代表格である。さすがに専門課程の1～2年目に解剖学・組織学・病理学・生化学・生理学・薬理学などの基礎医学を、3年目以降に領域・臓器ごとの疾患について学ぶという古典的なカリキュラムでよしとする考えは過去のものになっている。しかしながら、教える側の教官も、教わる側の学生も、このような時代の変化に対応した教材探しに苦労しているのが現状でもある。

このような問題認識に基づき「解剖」「身体診察」「医用画像」という医学の学習の鍵となる3項目を統合する教材として企画されたのが本書“Clinical Anatomy Cases”

(邦題:『解剖×画像所見×身体診察マスターブック』)である。

本書は総論「臨床での統合的アプローチ」と6つの領域〔胸部、腹部、骨盤部、背部(脊椎・脊髄)、上肢と下肢、頭頸部〕ごとの各論から構成されている。各論では、臓器ごとの解剖と診察手順の概要に引き続き、代表的疾患が提示され、読者が症例ごとに診察・診断のプロセスをシミュレーションしながら、それぞれの疾患の徴候、身体所見、検査所見、定義、原因、鑑別診断を効率的に学ぶことができるように工夫されている。わかりやすいシェーマとともに典型的な画像が豊富に掲載されていることも本書の大きな特徴となっている。

これまでの医学教育のギャップを埋める画期的な企画である本書は、医学生、研修医だけではなく、



医学教育に関わる教官にとって得難い教材になると確信している。また「読みやすい」「わかりやすい」臨床医学の入門書として、看護師、臨床検査技師、診療放射線技師、リハビリテーションスタッフなど医療にかかわるすべての方々にも強く推薦する。

本書を企画したトロント大学のAnne M.R. Agur先生と執筆者の方々、そして翻訳を担当した東京大学の前田恵理子先生と同放射線医学教室の若手の皆さんに心からの敬意と謝意を表する。

B5判・頁408

2018年09月

定価: 本体5,800円+税

[ISBN978-4-260-03627-6]

医学書院刊